

別紙 1-1

論文審査の結果の要旨および担当者

報告番号	※	甲	第	号
------	---	---	---	---

氏 名 内田 元太

論 文 題 目

Development and validation of a new scoring system to determine the necessity of small-bowel endoscopy in obscure gastrointestinal bleeding

(原因不明消化管出血において小腸内視鏡の必要性を決定するための新しいスコアリングシステムの開発と評価)

論文審査担当者

主 査 委員

名古屋大学教授

柳野 正人 

名古屋大学教授

委員

小寺 泰弘 

名古屋大学教授

委員

中羽 象男 

名古屋大学教授

指導教授

藤城 光弘 

論文審査の結果の要旨

別紙 1 - 2

今回、原因不明消化管出血（OGIB）におけるダブルバルーン小腸内視鏡（DBE）の必要性を予測するスコア（DBE スコア）を作成し、その妥当性を retrospective に評価した。多変量解析の結果、出血時期、輸血歴、小腸カプセル内視鏡（SBCE）所見が、OGIB 患者において DBE の必要性を予測する因子であると考えられ、それらを用いて作成した DBE スコアによって、高い精度で DBE の必要性を予測することが可能であった。この結果、DBE スコアによって不要な DBE による患者負担を減らすことができる可能性が示唆された。

本研究に対し、以下の点を議論した。

1. 本研究における DBE 施行基準は、SBCE で有意な病変を認められない症例でも、患者拒否や全身状態不良で DBE 施行困難な症例を除いて、原則全例で DBE を施行することであった。これは、SBCE では出血源が指摘できない SBCE 偽陰性症例が存在することが知られているためである。しかし、SBCE で有意な病変が認められない場合、患者が DBE を拒否することがある。このことがバイアスとして結果へ影響を与えた可能性も考えられるが、DBE 未施行の症例を除外した場合、SBCE 所見が軽微である症例が除外されてしまい、そのような症例における DBE の必要性を正確に評価することが困難となる可能性が考えられる。そのため、本研究では DBE 未施行の症例も対象へ含めて検討を行った。

2. 出血から早期に小腸内視鏡を行った症例の方が出血源の検出率が高くなることが報告されており、ongoing overt bleeding 症例ではスコアに関わらず DBE が必要となる可能性が高いと考えられる。しかし、実臨床においては ongoing overt bleeding でも DBE で出血源を同定できない症例が少なからずあり、本研究でも ongoing overt bleeding にも関わらず DBE 不要であった症例が 42.9% (30/70) 認められ、そのうち 13.3%(4/30)の症例はスコアにより DBE 不要と判定できる症例であった。したがって、ongoing overt bleeding 症例でも DBE スコアが有用である可能性が示唆された。

3. 本研究における輸血歴の定義は、同一の出血エピソード内での輸血の有無としており、他疾患による輸血の既往は輸血歴に含まれていない。

4. 本研究における ongoing overt bleeding の定義は最終出血から 48 時間以内に SBCE を行った顕性出血症例である。ongoing overt bleeding でも総出血量が少なく輸血を必要としない症例があり、輸血歴と出血時期に強い相関は認められなかった。そのため多変量解析を行っても問題がないものと考えられた。

本研究は、SBCE を用いた OGIB の診断法を確立する上で、重要な知見を提供した。

以上の理由により、本研究は博士（医学）の学位を授与するに相応しい価値を有するものと評価した。

試験の結果の要旨および担当者

報告番号	※ 甲 第	号	氏 名	内田元太
試験担当者	主査	柳野正人	副査 ₁	小寺泰弘
	副査 ₂	中羽孝丸	指導教授	蔭成光三
(試験の結果の要旨)				
<p>主論文についてその内容を詳細に検討し、次の問題について試験を実施した。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ダブルバルーン小腸内視鏡 (DBE) 施行基準とDBE未施行者が対象に含まれることが結果に与える影響について 2. Ongoing overt bleedingにおけるDBEスコアの臨床的意義について 3. 本研究における輸血歴の定義について 4. 輸血歴とongoing overt bleedingの相関関係の有無とそれが多変量解析へ与える影響について <p>以上の試験の結果、本人は深い学識と判断力ならびに考察力を有するとともに、消化器内科学一般における知識も十分具備していることを認め、学位審査委員合議の上、合格と判断した。</p>				